

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 11月 29日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	AUA Students Activity	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input checked="" type="checkbox"/>	7. その他(教育機関)		

派遣先大学の概要

ソウル大学は学問・スポーツにおいて韓国第一の大学。ソウルの他に平昌にもキャンパスがあり、今回は両キャンパスを訪問した。

参加した動機

駒場祭期間のため授業とプログラムがほとんどかぶらなかったこと、参加費用が無料であったこと。また、アジアのトップの大学の学生と交流し、平昌五輪の会場を見学するなど、内容も充実していたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

興味がある場合はこまめに国際交流課のHPをチェックすべき。私はプログラムの存在に直前に気づき、応募手続きがかなりバタバタしてしまった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

5日間の滞在だったためビザは不要。(韓国の場合90日以内は不要)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に準備はしなかった。直前に風邪を引いてしまったため、風邪薬のみ持って行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

加入した保険は大学の保険のみ。また、クレジットカードで往復飛行機の決済を行った結果自動的に楽天の保険も適応されるようになった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

授業とほとんどかぶらなかったため、特に手続きは行わず。指導教官などお世話になっている教官に一言報告したのみ。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
プログラムの公用語が英語のため直前に英語の学習を行った。また、韓国語に関する知識が皆無だったため2週間だけ韓国語の基礎を勉強した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
他国の学生と交流する場合は日本からお土産を持って行くと喜ばれる。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
初日にウェルカムディナーを開いてもらい、2日目はソウル大学校ソウルキャンパスにてオリンピックについてのレクチャーを受けたり各参加国の伝統スポーツの紹介・体験などを行った。ソウル大学校のキャンパスツアーやテコンドー部によるテコンドー体験などもあり、ソウル大学のことや現地の学生について知る良い機会となった。3日目は平昌に移動しオリンピック関連施設を見学、4日目はその続きとスケート体験を行った。最後にグループごとにオリンピックに関するテーマで発表を行った後、5日目に仁川空港へ移動、解散となった。
②学習・研究面でのアドバイス
ソウル・香港・UAEの学生は特に、日頃から英語で議論をすることに慣れているようで、レクチャーや議論への参加が活発であった。他国からの参加者も英語を流ちょうに話していたため、語学の面で後れを取ることが多かったように感じる。英語の勉強はきちんとしてから行くべきだった。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語が全然通じず、思うように話せなかった。また、東南アジア系の人の英語を聞き取るのが大変だった。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ソウル大学校のゲストハウスに滞在。ソウルでは2人部屋で2泊、平昌では4人部屋で4泊。オンドルが暖かく、清潔感のある部屋でとても快適だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は日本より寒い。ソウルも平昌も雪が降った。食事や交通機関(バス)はすべてプログラム側から提供された。お金は少しだけ現金を持って行ったが使う機会がほとんどなかった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
ミサイル等が心配されたが、現地の人も含めてあまり気にしていなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
基本的には仁川空港までの往復の交通費のみ。また初日の晩に現地学生に食事に連れ出してもらったため、その時に費用がいくらかかかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大の奨学金を受給
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
プログラム中に平昌のオリンピック地でスケート体験を行った。また平昌のゲストハウスには体育館があったため、夜に皆でバドミントンやバスケットボールをした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
ソウル大の学生や職員の方が非常に親切で、常に私たちをサポートしてくださった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
Wi-Fi環境は充実。また、キャンパスツアーをした際にソウル大の設備が最先端であることを実感した。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムの第一の目標がほかのアジアの学生との交流だったため、その目標は大いに達成できたと思う。参加者はみなとても優秀で、5日間という短い間ではあるが密な交流をしたことで様々な刺激を受けることが出来た。また、みな同じアジアに属している国の出身というだけあって、文化的に共通しているところや影響を与えているところを身をもって感じる事が出来た。アジアにおいていかに日本の影響力が大きいかにについても外に出てみて改めて気づかされる部分があった。
②参加後の予定
今後も様々な国際交流プログラムに参加していきたい。今度は2月にイギリスで開催されるプログラムに参加出来たらと思っている。しかし、それまでの間は自分の勉学・研究を進めたいと考えている。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
「忙しいから」というのは理由になりません。東大で勉強しているからには誰も忙しいものだと思います。その忙しさの中で作り出した時間が、きっと素晴らしい経験をもたらしてくれると思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
事前に韓国語のテキストを購入して勉強した。また韓国に関するウェブサイトや外務省のHPなどは一通りチェックした。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 11月 28日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	AUA Student Activity	派遣先大学:	SNU
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 未定)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

1946年に創設された韓国で最も伝統のある大学。16の単科大学からなり、世界大学ランキングでは35位(the QS World University Rankings® 2016-2017)

参加した動機

2020年の東京オリンピックを控えている日本人として、これまであまりなじみのなかったスポーツやオリンピックについてより深く知りたかったため。また各国から学生があつまるとして友人を作りたかったため。さらに歴史問題や領土問題などで、国内で度々悪いイメージを持たれがちな韓国という国を自分の目で確かめたかったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類を提出したほかはあまり手続き的に準備することはなかった。AUAからの手続きにトラブルがあったが、東大の国際本部の方からのヘルプで事なきを得た。学期期間中かつ駒場祭期間中ということで、課題やスケジュールの調整に苦労した。(これはほかの国でも同じなようで、自由時間に課題に取り組む学生が多く見られたほか、帰国当日にテストを控えているという学生もいた)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

短期訪問のためビザはなし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から案内のあった保険に加入した(3000円弱)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

駒場祭期間中ということで、授業に特に差しさわりはなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS6.5。韓国語やほかの言語は特に学習しなかった。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
形に残るお土産をプレゼント用にとっておくといふと思う(自分は貰うばかりだった)。参加者の名前はニックネームが別にある場合があるので必ずしも覚えなくともよいと思う。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
来年開催されるピョンチャンオリンピックについて、スタジアム訪問や授業を通して学ぶというもの。また各国のスポーツ紹介やオリンピックのプレゼンテーションなど、生徒同士の相互プレゼンテーションも行った。
②学習・研究面でのアドバイス
訛りのある英語が飛び交うので、事前に心の準備くらいはしておくといふと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
②でも述べたが、英語の訛りに慣れるまでに時間がかかった。最終日近くなってようやく聞き返さずにわかるようになったが、他国の学生同士も大体同じだったようで、意味が分からないからと無口になってしまうよりは恐れず聞き返していくといふと思う。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学のゲストハウスに宿泊したため、並のホテルかそれ以上の住環境だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
とにかく寒いからと長袖ばかりを持って行ったが、宿舎内の暖房設備が非常に充実しており、長袖では暑くて困ることもあった。またお金を使えるタイミングがキャンパス内のコンビニ程度なので、あまり多く両替しても使う場所がない。クレジットやデビットカードがあれば特に困らないと思う。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
主な活動場所がキャンパスということもあり、治安面で特に不安に感じることはなかった。また武道やスケート体験など運動する場面があるが、ケガをしないよう自分でも気を付ける必要がある(実際軽症ではあったがケガをした参加者もいた)。北朝鮮に関しては日本国内の認識と同じらしく、戦争を懸念している人は見かけなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
往復の飛行機代 + お土産代 + 到着前・解散後の食費など。合わせて7.8万円程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大からの奨学金を利用した。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
自由時間は近くのお店に出かけたり、誰かの部屋でゲームをしたりすることが多かった。課題のある参加者や疲れて休む参加者もいたので、自分の作業をしていても何ら責められないが、やはり仲を深めたければ参加したほうが良いので、スケジュールや体力管理には気を配っていてもよいかもかもしれない。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
事前連絡からプログラム終了まで、特に困ったことはなかった。プログラム中に手袋をバスの中に忘れてしまったが、翌日には戻ってきたのでトラブル対応力は高いほうだと思う。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
東大と同じかそれ以上に充実していた。特にwifi設備に関してはSNUの圧勝だった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
参加動機の欄で述べたが、参加目的は①オリンピックについて学ぶ、②他国学生との交流、③韓国を知りたいものだった。①について、実際に使われるスタジアムの訪問などを通してオリンピックをより身近に感じる事ができ、参加者との交流を通じて、スポーツそのものへのイメージも変わったように思う。②については、期待以上の素晴らしい結果が得られた。AUAではUAEから日本までアジア圏の様々な学生が集まるため、多様性という面でも非常に恵まれており、自分が今まで行ったことのない国や聞いたこともないような文化について多くの知見を得られた。③について、観光をするほどの自由時間はなかったため実際に自分の足で歩き回ることはできなかったが、韓国人との交流を通じて自分の視点は多少なりとも変わったように感じる。
②参加後の予定
当面はプログラム中に溜まった課題やスケジュールをこなさなければならない。しかし参加者との交流を通じて、自分がまだまだいろいろなことに関して選べる、悩める立場にあることに気が付いたので、進路も含めて色々なことを考え直す予定である。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
学期中、しかも駒場祭期間中での開催ということで参加が難しいとは思いますが、それらを考慮したうえでも参加する価値は十二分にあると。大学から奨学金を貰って他国へ行き、さらに友人を作る機会はそうそうないため、是非とも参加してほしい。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_03_04_j.html
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。